



武道文化論における武道礼法指導

中 村 勇

伝統武道・スポーツ文化系 講師

「武道文化論」について

鹿屋体育大学体育学部で開講している「武道文化論」は学部3年次生を対象とした関連理論科目である。講義では武道の文化性について多角的に考察し、武道の特性を理解することを目的としている。

毎年度、後期日程に実施し、平成20年度は23名が受講した。学生の所属は約9割が武道課程、1割がスポーツ総合課程で前者の約7割が柔道、残りが剣道を専門に修行する学生である。年度によってはなぎなたなどの学生が若干名加わっている。また武道課程学生は1年次に「武道学概論」、2年次に「武道史」を受講している。毎講義の前後には立礼ないしは坐礼を実施し、講義後には内容に関する自由コメントを提出してもらった。

平成20年度講義における武道礼法指導

平成20年度は武道礼法の理解に重点を置いた授業構成とし、実際全15講中、礼法を主題とする講義を3回計画し、また他講でも積極的に話題として取り上げた(表)。ここでその概略を整理する。

<第3講>

講義前後には、毎回立礼ないしは着座のまま礼を行っているが、第3講目の開始礼直後に、どういう気持ちで礼をしたのかについて受講生に口頭で聞いてみた。受講生達は一様に動揺し、しばし考え込む様子がみられた。その後得られた回答は「講師に対してお願いする気持ち」「講師に対して感謝する気持ち」「授業の始まりのけじめをつける気持ち」「気持ちを切り替えるため」などであった。

日本人として、武道人として、礼法は日常生活の一部として身につけてはいるが、逆にあまりに身近すぎてその意味を意識していないケースが多い。一般に礼は「あいさつ」あるいは「感謝」や「敬意」などのためと考えられており、講義でもこの答えが多かった。しかし、授業にのぞむ「けじめ」や「気持ちの切り替え」という回答は、対外的だけでなく内面的な意味を持つ武道礼法の特性を表している。

<第6講>

小笠原流礼法のビデオと資料を基に武道の身体動作について取り上げ、その中で礼法の動作や呼吸法を検証した。受講生は無駄がなく呼吸法まで組み込まれた所作の洗練性と美しさに驚き、整えられた作法による礼法と西洋式の握手などが根本的に相違することを実感できた。

<第9講>

講義中盤の第9講目には国際柔道の礼法について取り扱った。ここでは柔道の国際普及の過程で発生した礼法に関する問題を紹介し検討した。伝統的な武道礼法には宗教的要素を内在しており、これが宗教に敏感な国際社会の一部で拒否反応が現れた。実はこの問題は海外だけの話ではなく必修化時代の学校武道でも発生しうる問題なのである。もし海外留学生が信仰上の理由で礼法を拒否したらどうするか、この質問を受講生に投げかけることでそれぞれにとっても身近な問題として認識を求めた。

<第10講>

ここではその前週開催された柔道の国際大会での礼法やマナーに関する映像を視聴し、意見交換を行っ

た。試合前後の選手の礼法動作、ガッツポーズなどの感情表現、コーチの応援時のマナー、控え室やウォーミングアップ場でのマナーなどの実写シーンを一つ一つ確認し、武道としての礼節のあり方について、厳密にはダメであるとしても、国際競技として許容範囲であるか否か、自らが武道指導者としての視点で検討した。

<第12講>

この講では客員教授の村田直樹講道館図書資料部長による「柔道に於ける礼法の変遷について」の特別講義が行われた。礼法の様式は時代により変遷したことを知るとともに、武道礼法には「自己を管理する自己」の存在がある点が重要であるという主旨の講義に受講生の多くが共感を示した。

<第13講>

ここではスポーツと武道というテーマでその類似性や相違性を議論し、その中で双方の礼法の持つ意味について考えた。冒頭に意見を聞いたところ、まったく同じという意見と競技における礼法の位置づけが違うといった意見などが出た。実は双方の礼の最大の相違点は村田教授が提示した「自己を管理する自己」の存在、つまり自己コントロールの効果を重視するか否かにあり、その精神が武道におけるガッツポーズの禁止などにつながっていることを理解した。

<第15講>

最終講であり学期末試験を実施した。選択問題で武道における「礼」の意義とは何かを問う設問で理解度を確認した。また講義内容で最も役に立ったことについて10名(43.5%)が礼法と回答した。

平成21年度講義について

さて平成21年度の授業は10月からスタートした。今回は第1講の冒頭に礼法に関するアンケート調査を実施している。図は練習相手を選んだり交代する時の礼の意味についての回答(複数回答可)を表したグラフである。おおむね正確な理解している者が多い一方、「周囲の人の目がある」「なんとなく」など消極的理由もみられた。

発表では平成21年度の実施状況についても報告を行う。

表 平成20年度 武道文化論

講義回	内 容
第1講	オリエンテーション
第2講	武道の国際普及の現状：北京オリンピックについて
第3講	礼の意味・武道と文化
第4講	文武両道・武士と刀剣
第5講	武士と刀剣・人を治める刀剣
第6講	武道の所作：小笠原流礼法—立居振舞—
第7講	修行とは
第8講	武道と禅宗
第9講	国際柔道の礼法
第10講	柔道の国際大会にみる問題
第11講	武士道・スポーツ
第12講	特別講義「柔道に於ける礼法の変遷について」
第13講	スポーツと武道
第14講	まとめ「武道とは何か」
第15講	学期末試験





図) 練習相手交代時の礼の目的は？

